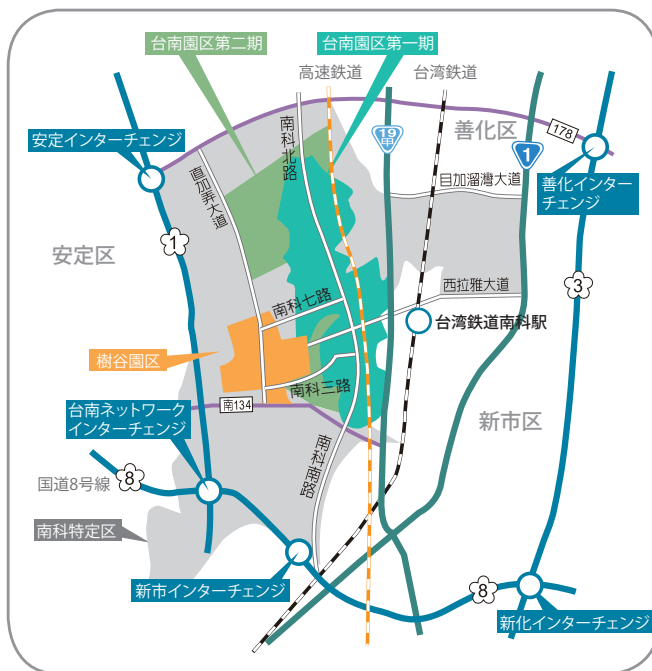


南部科学工業園区（以下、南科）は台南園区と高雄園区から成ります。行政院は1991年の「国家建設六年計画」で「新設科学工業園区」の構想を固め、1993年には「振興経済方案」を決定、「増設南部科学工業園区」の方針を打ち出しました。そして、1995年5月の南部科学工業園区設置準備計画（台南園区第一期工区）制定を以って台湾南部はハイテク産業発展への大きな一歩を踏み出したのです。2001年の4月と9月にはそれぞれ路竹園区（高雄園区）と台南園区第二期工区の開発が決まりました。

台南園区は台南市の新市、善化、安定の三区にまたがって1043ヘクタールの敷地を有し、光電子、集積回路、精密機械、バイオ、グリーンエネルギーなどを中心とした産業が立地しています。台南園区へは国道1号線または国道3号線から国道8号線新市インターを経由するか、省道台1号線から園区直通的連絡道路を利用することが可能です。また、公共の交通機関でアクセスする場合は台湾鉄道・沙崙支線の台湾鉄道南科駅から園区まで無料の巡回バスが運行するなど、交通インフラも整備されています。

高雄市の路竹、岡山、永安の三区にわたって設置された高雄園区は570ヘクタール、主要産業は光電子、精密機械、バイオ（医療器材）などとなっています。高雄園区へは国道1号線の高科インターから連絡道路が通じているほか、台湾鉄道の路竹駅と岡山駅からは省道台1号線でのアクセスが可能です。また、2010年9月13日には高雄MRTの連絡バス紅69Bが園区への運行をスタートさせました。今後MRTが路竹まで開通すればアクセスは格段に向上することが見込まれます。小港国際空港まで35キロ、高雄港まで40キロという恵まれた立地は国際物流の面でも大きなメリットとなっています。



台南園区交通マップ



高雄園区交通マップ

